科目名	教育心理学特論
科目属性	専門科目Ａ群
担当教員	松浦　均
単位数	２単位（SC　0.25 単位）

【授業の目的・ねらい】

昨今の「教育心理学」がカバーする分野領域は多岐にわたる。同時に専門化も進み、多くの研究者が教育心理学分野での研究を進めている。研究者だけでなく現職教員による実践研究も増えてきた。社会人大学院生が修士課程において教育心理学を学修するにあたって、とくに学部教育で「教育心理学」を履修した人にとっては２回目という立場で、改めて「教育心理学」とはどういう学術的見地に立つ学問なのか、教育分野に関わる心理学とはどういう領域なのか、はたまた「教育」と「心理」の関係はどのようなものなのか、これまでの経験を踏まえて、自分なりの視点を持ち、自分の実践に生かしていけるようさらなる理解を深めていくことを目的とする。

【授業の概要】

授業の到達目標に記載されたテーマに沿って、各回の授業内容を学習していく。具体的には次の（１）～（５）を行っていく。

（１）授業計画に沿ってテキストの各章・節の内容を熟読し、理解する。
（２）関連する文献や参考資料を検索し、ダウンロードして読み、知識を広げる。
（３）課題をレポートにまとめ、教員からのフィードバックによって、理解を深める。
（４）スクーリングでは、最近の心理学のトピックを知るとともに、研究法についても学習する。
（５）科目修得試験では、教科書、レポート、スクーリングでの学習を総合した知識を問う問題に答える。

【授業の到達目標】

「教育心理学特論」は、学部段階の「教育心理学」で学んだ基本的な知識に加えて、最新の知見をもとにさらに理解を深めること、また、教育現場における問題や課題解決に資するスキルを形成することを目指している。したがって教科書を始め、最近の学術論文も読んでみてほしい。学校場面における教育心理学的問題を解明し解決する方策を研究し、解決策を見つけられるようになることも目標の一つである。

授業の主なテーマと下位の目的は次のようなものである。

(1)【発達と教育】　発達段階の意味を、単なる発達の理論としてではなく現実の教育に関係づけて考えられるようになる。
(2)【学校不適応と教育相談】　学校不適応や障害が問題を引き起こすしくみを理解し、教育相談の方策に結びつけることができる。
(3)【認知的学習の理論：学習の動機づけ】　複雑な知識の学習を認知心理学の視点から考えられるようになる。と同時に、学習への動機づけに関係するさまざまな概念を実証的な根拠に基づいて理解する。
(4)【子どもの関係性の調整、社会性の発達】　いじめの問題も含めて、社会性の発達を理解し、学級の子どもどうしの関係性を調整するための知識を獲得する。
(5)【授業法とその原理】　多様な授業法とその原理を理解する。学校現場における新しい授業の展開について理解する。
(6)【根拠に基づく教育のための研究法と教育評価法】　「根拠に基づく教育」を目指すために教育心理学の基本的研究方法や教育評価の方法、テストや検査に必要とされる信頼性・妥当性などの概念について、きちんとした知識を身につける。

教科書はあくまで整理された要点をもとに概説されたものであり、理解を深めるためには自分で参考文献や検索した文献も読んでみるという能動的な姿勢が必要である。

【授業計画】

第１回：教育心理学とはどんな学問か、教育心理学の課題は何か、またどのようにして研究をしたらよいかを学習する。

第２回：発達という概念、なぜ発達段階が存在するのかという根本的な問題、さまざまな発達段階の考え方のちがい等について理解する。
第３回：ピアジェの発生的認識論と新ピアジェ派の考え方について理解する。
第４回：学校不適応や教育相談について理解する。
第５回：特別支援教育について理解する。「アセスメント」という言葉の意味をきちんと理解する。
第６回：比較的単純な学習の形態である２種類の条件づけについて再度学び、条件づけの応用までを理解する。
第７回： 学習の基礎としての記憶について認知心理学においてどのような展開があったかを知る。
第８回：条件づけとは異なる複雑な知識の学習について認知心理学はどのような考え方を発展させてきたかを理解する。
第９回：学級集団というものの機能や意味を理解する。
第１０回：学級集団の病理現象としてのいじめについて理解する。
第１１回：授業理論と授業形態の概要を理解する。
第１２回：教育における教師の本質的な役割を理解する。
第１３回：ＩＣＴ（ Information and Communication Technology ）を教育の中でどう活用したらよいかを考える。
第１４回：教育評価の機能、方法、必要な条件について広く理解する。
第１５回：「教育データと分析結果の見方」を学習し、「根拠に基づく教育」を行おうとするときの基礎力を身につける。
○科目修得試験

【評価方法】
スクーリング評価（30%）、レポート評価（30%）、科目修得試験（40%）を総合しての評価となる。

【教科書】
1. 子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司著『ベーシック現代心理学６　教育心理学（第３版）』有斐閣　2015　　ISBN 978-4-641-07245-9

【参考図書】
＊以下のものは参考書・参考資料の例であって必ず参照しなければならないわけではない。必要な文献は自分で検索して学修すること。スクーリングの際にも参考図書を紹介する。

1. 鎌原雅彦・竹綱誠一郎著『やさしい教育心理学（第４版）』有斐閣　2015 ISBN 9784641220591
＊学部段階での「教育心理学」を全体的に復習するのに好適なテキスト。このテキストは、平易な表現で、教育心理学の標準的な内容を網羅しており、図表が豊富なので内容が理解しやすくなっている。図表やコラムにも根拠になるデータが明示されている。
2. 森敏昭・青木多寿子・渕上克義編『よくわかる学校教育心理学』ミネルヴァ書房　2010 ISBN 9784623056422
＊教育実践に役立つ教育心理学のテキストとして作られたもの。タイトルにあるように学校場面の具体的なイメージがしやすく、サブテキストとして使用可能である。
3. 吉田俊和・三島浩路・元吉忠寛編『学校で役立つ社会心理学』ナカニシヤ出版　2013 ISBN 9784779507540
＊学校現場で生じる問題を考えるとき、臨床心理学、発達心理学、学習心理学からのアプローチに関する知識が教育心理学の中核とされているが、社会心理学的な知見も役立つことが多い。本書はそのようなスタンスで書かれており、学校を取り巻く諸課題の解決に資するヒントを多く見つけることができる。
4. 『教育心理学研究』『発達心理学研究』『社会心理学研究』『心理臨床学研究』などの学術誌に掲載されている論文。知見としては新しい（最近）の論文を見つけることが望ましいが、その論文の引用文献リストに並んでいる論文もチェックしておくことが研究を進めていくコツの一つである。